



Cooperative Shirikou!

自らの自己実現のために、自己選択し、自己決定のできる生徒

共感的人間関係の構築できる生徒

生徒指導だより

Unite!

北海道知内高等学校
生徒指導部
令和4年4月8日
第1号

令和4年度がスタートしました！

◎身につけていてほしいこと◎

- ・自己選択、自己決定できるようになろう！
- ・自己指導能力を得よう！
- ・共感的人間関係を築ける生徒になろう！

「Unite!」

- ・・・ユナイト！と読みます。一致団結するという意味です。知内高校生徒・教員・保護者・地域が一体となっていきましょうという意味を込めました。

「Cooperative Shirikou!」

- ・・・「助け合う、協力的な 共同して働く」という意味です。知内高校を中心に協働共同的な関係を広げ、大きく動き出せる年にしましょう！

令和4年度がはじまりました。

3～4月・・・春は出会いと別れの季節です。3月に別れがあり、この4月には新しい出会いがありました。そして、新入生が入学し知内高校生徒数、総勢173名となりました。

春という季節は、こういった環境の変化に伴い、メンタルの浮き沈みがでやすく、感情が出やすくなり、感情が中心となった行動となりやすいです。そして、新年度の一か月が過ぎ、今まで自分の知らないうちに我慢をしていたことに気づいたり、または知らぬうちに自分本位になってしまう季節です。楽しいけれど疲れている・・・ことありませんか？無理をしている自分がある・・・きっと自分の本当の心の声が聞けていなかったり、体が疲れているのかもしれない。身の回りを整理整頓し、心身ともにリフレッシュしてください。

今年度、あえて皆さんに考えてほしいのは、変わらず大切なものと、変わっていくものを整理しましょう、ということです。

環境や出会う人は変わりますが、自分の中の価値観はどうでしょうか。

価値観をどう持つのか。わかりやすく言えば、何がかっこよくて何がかっこ悪いのか。何がかわいくて、何がかわいくないのか。高校生というのは、この基準を社会に出た時と照らし合わせていかなければならない時期です。

自分だけが気持ちの良いことと、自分も周りも気持ちの良いことがあった場合、どちらを選択するか。それは、自分と周囲（社会）の関わりを知っているかどうかで決まります。また、自分一人ですることの限界を知っていれば、周囲の協力を得なければ自分の目標を達成できないこともわかります。

道徳観（心）・・・難しい言葉です。場所や環境が変わってもダメなものはダメ。いいものはいい。実は、正解は自分が一番よく知っています。問題は自分自身を振り返ることができるかどうかです。

これまでに、生徒指導に携わり、生徒の行ったことを順を追って客観的に整理し話をしている、問うと、必ず悪かった部分や自分本位であった部分に気づきます。この作業を日常的に自分でできるかどうかです。または気付かせてくれる仲間がいるかどうかです。

周囲や環境に惑わされず、自分の中の正解を信じてください。

いじめについて

いじめは絶対に許されない・・・この基準は変わりません。では、いじめの発生はいつどこからでしょうか。いじめは、日常生活の延長線上にあります。みなさんの普段の何気ない人間関係の中にいじめの種はあるのです。どのような人間関係があればいじめは防げるのでしょうか。一例をあげてみます。

しばらく掃除さぼっている A 君がいて、ある時、一緒に掃除をしていた B 君が、たまりかねて注意をするとさぼっていた A 君が泣いてしまいました。

A 君は、「注意をされてショックで・・・。自分としてはやっていたつもりなのに・・・、今まで言われてなかったのに・・・」
被害者として A 君は先生に訴えてきました。

しかし、よくよく事情を聴くと、している、さぼっているという基準があいまいでした。同じ場所で掃除という同じことをしながらも、同じ作業を共に行っているという共感がないままでした。みんなでこーしよう。役割を決めてそれぞれが果たそうという話はなく、とりあえずやっていた中で起きた事件なのです。役割ややることがあいまいであると、こういったことは起きてしまいます。

ではこの場合の加害者は？

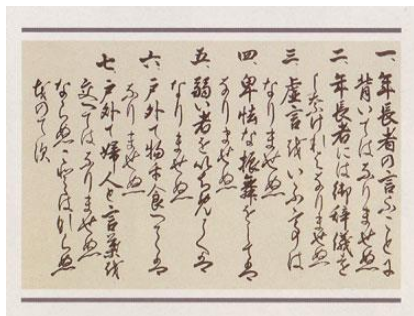
掃除をさぼっている A 君は全体を裏切っている。

注意をした B 君は、注意の仕方もあったかもしれない。

また B 君を含めた周囲は、しばらくさぼっていたのにしっかりやろうと促せない関係。

みなさんに気にしてほしいのは、自分が知らぬ間に、気づかぬうちに加害者になっていないかということです。集団や個人を裏切っていないでしょうか。加害者になってしまっている自分に声をかけてくれる人はいますか。また声をかけられた時に素直に聞ける自分がいますか。

こういった事例も、日常的な共感的人間関係が築けているかどうかの一例です。この週末に再度考えてみてください。



- 一、年長者（としうえのひと）の言ふことに背いてはならぬ
- 二、年長者にはお辞儀をしなればなりませぬ
- 三、嘘言（うそ）を言ふことはなりませぬ
- 四、卑怯な振舞をしてはならぬ
- 五、弱い者をいぢめてはならぬ
- 六、戸外で物を食べてはならぬ
- 七、戸外で婦人（おんな）と言葉交へてはならぬ

いよいよ新年度！

< 1 > 交通事故に十分注意を！ 毎年 4 月から 5 月にかけて、自転車や自動車の事故が急激に増加します。特に北海道では雪融けにより、スピードを出す車が多くなります。交通量も増加し、高校生が被害者となる交通事故も発生していますので、この連休中はいつも以上に交通事故に遭わないように気を付けて下さい。また、車に同乗するときも、ドライバーの方がスピードを出しすぎたり、交通違反をしないように声をかけてくれればと思います。

自転車乗車中、歩行中のながらスマホ、イヤフォン着用には十分に注意を！

< 2 > プロフィールサイトなどにおける情報掲載（写真など）

についてスマートフォンやインターネットの出会い系サイト、SNS、LINE、Twitter、Instagram、Facebook でトラブルに巻き込まれるケースが急増しています。自他の個人情報や写真を気軽にプロフィールサイトなどインターネット上に掲載することによって、個人情報が勝手に使われて犯罪に巻き込まれる可能性もあります。本人特定やいわゆる「炎上」などによって、本人はもちろん、家族の写真が公開されたり、保護者の職場に抗議の電話がかかってくるといった予期せぬトラブルが発生し、書き込みがインターネット上から完全に削除されないために、いつまでもトラブルが続くという苦しみを感じている人もいます。個人が特定できてしまうような情報の取り扱いにはくれぐれも気をつけてください。



< 保護者の皆様へ >

ある調査では、何らかの携帯電話を持つ未成年者（10 歳～18 歳）のスマートフォン所有率は 80.3%（70.6%）。小学校高学年（10 歳から 12 歳）60.2%（37.9%）、中学生 82.0%（76.2%）、高校生 98.5%（97.6%）。特に小学生の所有率が伸びています・・・という結果が出ています。高校生はほぼ 100% の所有率です。スマホの使い過ぎで 4 人に 1 人は体調不良を感じたことがあるそうで、学習成績悪化の原因として 5 人に 1 人は注意をされているという結果があるそうです。上記のようなトラブルを回避するためにも、お子様使用の携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコン等についてフィルタリングの設定をするなど、使いつぱなしの状態にはせず、会話を多くするなどして、安全に向けての対策をお願いいたします。

子育て四訓

1. 乳児はしっかり肌を離すな
2. 幼児は肌を離せ、手を離すな
3. 少年は手を放せ、目を離すな
4. 青年は目を離せ、心を離すな

「子育て四訓」は山口県下に住む教育者の方の経験を踏まえてまとめたものだそうです。

少年は手を離せ 目を離すな

少年は、友達との付き合いによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやらないといけません。ただし、いろんな危険があるので、目を離してはいけません。この時期、子供が親に反抗したり、非行や問題行動に走ったり、いろんなことで苦しい思いをするかもしれない。しかし、それは成長の過程である。親として逃げず、共に成長することを心がけるべきだ。子供の荒れの背景には、親や友人に『こちらを向いてほしい。』というメッセージであることが多いのである。

青年は目を離せ 心を離すな

青年期にまでなると、完全に自立していくために、自分なりの生きがい、進路を歩んでいくときであるが、気持ちの上では、心を離してはいけないということである。いずれにしても、子育ての最終的な責任は親にあるという基本を忘れてはいけない。

今月の9つの力、重点項目は **計画力・課題発見力**

～生徒会より～ 生徒会長 奈良みづき さんより

私は物事を進める上で1番大切なことは計画を立てることだと思っています。去年の10月に生徒会執行部の一員になってから、たくさんの経験をしてきました。私達は行事などをひとつ終わるごとに反省を行っています。その時間は、成功したところ、失敗したところ、次に活かすことが出来るところなどを話し合うようにしています。失敗したところについては、「どうして上手くいかないのか」を考えます。振り返りを行うとその原因はいつも見通しの甘さにあります。はじめに計画した通りに動いても、あれが足りない、これが足りない、これもやりたい、とやらなければいけない事が浮き彫りになってきます。その結果、時間が足りなくなり当日ギリギリに準備が終わり本番で失敗してしまいます。これは球技大会でも予餞会でも出た反省です。私達は同じ失敗を繰り返してしまったのです。そこで、[PDCAA サイクル]というものを意識するようになりました。これは、Plan(計画)Do(行動)Check(振り返り)Action(改善)Achievement(達成)の頭文字をとったものです。この流れのとおりに行動することで、今行っている対面式の準備はこれまでと比べスムーズに進めることができたと思います。課題を見つけ、原因を考え、改善することが成長への近道であると学ぶことが出来ました。

ぜひ皆さんも、テスト勉強や学校祭の準備をする際には、計画を立てるところから始めてみてください。

～生徒指導部教員より～1 学年主任 京谷萌子 先生

あなたの課題は何だろう？

生徒指導部京谷です。今年度は、1年A組の担任として皆さんと関わっていくこととなりました。よろしくお願いいたします！さて、知高生に身に付けさせたい9つの資質・能力の一つに「課題発見力」というのがあります。課題発見力…まず、課題って何なのでしょう？辞書を調べると、課題とは「解決すべき問題のこと。対処が必要な事柄であり、それへの対処を任務として負わされているような問題のこと。」と出てきました。つまり、そのままにして置けない、そのままにして置いたら大変なことになりそうな問題のことかなと思います。

課題を解決していくためには、まず、何が課題なのかを見極める力が必要ですね。問題がわからない事には、どうやって解決するかを考える所まで行き着きません。あなたの周りには、勉強、部活、人間関係、進路…など、様々なことがありますね。私が思う、一番軸になる課題は、「なりたい自分・なりたい大人」になるための課題です。この後、数年で皆さんは自分の仕事をもち、お金を得て、自立した生活へと向かっていきます。でも、今年から成人が18歳になるのは知っていますか？18歳から大人の仲間入りをするという事。当時の自分を思い返すと、全然大人だなんて思える中身ではなかった記憶がありますが…それでも皆さんは18歳が成人、そこからは様々な権利と責任を持つこととなります。今のままの自分で、あなたは「なりたい大人」になっていけるでしょうか…？

課題を発見するためには、どうなっていたいのかというゴールがある程度見えていることが必要だと思います。そこが見えてこそ、何が足りないのか、何が問題なのかが見えてくるのではないのでしょうか。

ぜひ、皆さんには、「どんな自分になりたいか」「どんな大人になりたいか」という未来の理想の自分像をもって、そうなるために解決すべき「課題」を、高校生活を通して見つけていってほしいです。

今年度の生徒指導課題（次年度は4月から解決へ！）

- ① 朝のあいさつ、できてます。笑顔で「おはようございます！！」 気持ちがいい！！
でも・・・ポケットに手を入れておはようございます・・・
相手がいて成り立つ挨拶・・・何かが足りませんよね。ここです。良いことは徹底されていて、細部に魂が宿り（少しおおげさですが）はじめて『良い』となるのです。何気ないことにも少しだけ気を配りましょう（あいさつは習慣です）。
- ② 置き傘が多かったです。その日に持って帰りましょう。
物の紛失のはじまりは、物の置きっぱなしや乱雑さ、置くべきところに物が置かれていないから始まります。まず自分の物の管理・整理整頓を心がけましょう。
- ③ 自転車ステッカーが貼られていない。鍵がかかっていない。置き方が乱雑。

こういった自転車等の無意識な物の管理が、普通に意識できるよう、朝と帰りの余裕を。

1 ランクアップのために、態度やマナー、そしてあたりまえのことを丁寧に意識できるようにしてください。